

第18回 ACECC(アジア土木学協会連合協議会)理事会参加報告

第5回 アジア土木技術国際会議の開催に向けて

土木学会 ACECC 担当委員会委員長
堀越 研一 (大成建設(株))

アジア土木学協会連合協議会(ACECC)の第18回理事会が、2010年2月21日～24日の間、韓国の釜山市で開催された。土木学会からは、担当委員会委員長である堀越に加え、住吉幸彦代表(セントラルコンサルタント)、日下部治顧問(東京工業大学)、山口栄輝副委員長(九州工業大学)、鳥居雅之幹事長(西松建設)、芹野恵美子(事務局)の6名が参加した。

ACECCは、アジア域内の持続可能な社会資本の整備を目指して、アジア域内の関連学協会が協力して学術・技術面の活動を行うものであり、1999年9月に正式に発足した組織である。発足から10年以上が経過し、現段階の加盟国は、日本、アメリカ、フィリピン、台湾、韓国、オーストラリア、ベトナム、モンゴル、インド、インドネシアの10ヶ国に加え、オブザーバーとしてカンボジアが参加している。ACECC理事会は、組織上ACECCにおける最高議決機関であり、1年に1～2回の頻度で開催されている。

今回の理事会での主要議題は、ACECCが主催して今年の8月8日～12日にオーストラリアのシドニーにて開催される第5回アジア土木技術国際会議(CECAR・Civil Engineering conference in the Asian Region)の詳細計画である。アジア土木技術国際会議は、第1回大会を1999年にソウル、第2回を2001年に東京、第3回を2004年にソウル、第4回を2007年に台北で開催され、最近では、10000人を超える産官学の技術者が世界中から集まる土壌では最大規模の国際会議となっている。第5回アジア土木技術国際会議の機軸テーマは、'Innovative Community Building (革新的な社会の構築)'であり、会議で扱われるテーマのカテゴリーとして、地盤や構造、環境などの個別分野から、建設マネジメント、交通、防災、水管理や気候変動など、アジアが直面する幅広いテーマを扱っている。また、加盟国の学会長が一堂に集まって議論を行う'Presidential Meeting'、アジア

域内に貢献をもたらしたと判断されるプロジェクトや技術者への表彰(ACECC賞)、学生論文コンテスト、設計コードやメソッドの開発をテーマにしたフォーラム、テクニカルツアーなどの催しが準備されている。ACECC賞については、加盟国間の合意が得られ5月早々に受賞プロジェクトや受賞者が決定する予定であり、受賞者は本会議での授賞式に出席することになっている。なお、第5回アジア土木技術国際会議の詳細については、関連ウェブサイトを <http://www.cecar5.com/> を参照されたい。

理事会では、上記、CECARにかかわる議事のほかに、技術委員会(TC)の活動報告、第6回 アジア土木技術国際会議 開催計画(2013年インドネシアにて開催予定)、ACECC Permanent Officeの設立の可否などが討議された。

ACECC Permanent Officeの設立の可否も、今回の理事会での大きな議題であり、アメリカ(ASCE)が香港支部を使つての事務局を受け持つとの提案を行ってきた。ま



写真1 理事会での集合写真



写真2 理事会開催風景

た、時を同じくして、フィリピン(PICE)も、事務局を受け持つとの提案を行った。現在のACECC規定では、ACECCの事務局は、アジア土木技術国際会議を開催する国の学協会に割り当てられることになっており、いわば、3年ごとの持ち回りになっている。持ち回り制を採用した背景には、今後発展が目覚ましいアジア域内の各加盟国が、事務局を持ち回りで経験してもらうことにより活動意識を高め、連携の重要性を自覚してもらうことにある。しかし、ACECC発足10



写真3 釜山巨済島連絡道 沈埋トンネル入り口の施工状況

周年を2009年に迎え、今後、ACECCの活動を円滑にかつ活発化するために、Permanent Officeを設置すべきであるとの意見が主流になってきた。第18回理事会での議論を受け、土木学会としても、ACECCの中心メンバーとして、Permanent Officeを招致すべく諸検討を進めることになっている。土木学会の国際戦略を勘案し、長期的視野にたつて早急に準備を進めなければならない。

理事会が開催された釜山市は、人口約380万人。アジア屈指の港湾都市である。市内は、まさに建設ラッシュ。オフィスビルや住宅ビルの建設だけでなく、湾岸を通過する高速道路、およびこれに伴う橋梁の建設が盛んに進められている。

最終日、理事会参加者一同で、釜山市の南西部で建設が進められている釜山巨済島連絡道(Busan-Geoje Fixed Link Project)

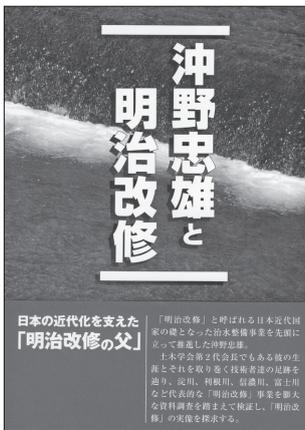


写真4 斜張橋の施工状況

建設現場を見学する機会を得た。延長8.2kmの道路建設プロジェクトで、二つの斜張橋と、韓国では初となる海底沈埋トンネルからなっている。同プロジェクトは、PPP(Public Private Partnership)の概念のもと、プロジェクト総額2.3兆韓国ウォン(約1800億円)のうち、72.25%を民間からの出資で賄っており、事業者は40年間のオペレーションを任される契約となっている。

わが国と同様、ドバイショックの影響を受け、高齢化社会を迎えつつある韓国が、ここぞ海外とばかりに、自信をもってグローバルな視点で活動を進めているように感じた。今の日本の建設業界に最も必要なものは、「元氣」であることを強く感じた次第である。8月に開催されるアジア土木技術国際会議についても、新たなビジネスチャンスを開拓するという視点で積極的な参加を望む次第である。

土木学会の本



沖野忠雄と明治改修

明治時代に始まった近代河川改修事業は「明治改修」と一括されますが、これらの改修により日本の河川の姿は一変しました。それまで乱雑に広・狭となったり、あるところでは広大な無堤地帯を有していた河道が、整然と整備されました。今日、われわれが目にする河川は、この「明治改修」により築かれてきたのです。

本書は、この事業を牽引した沖野忠雄(土木学会第2代会長)に着目しながら、明治改修の全体像を現すことを目的としています。明治改修とは、西欧から導入した近代科学技術の下に、大規模な築堤を基として治水を目的に整備していった河川改修と言えますが、本書ではその社会的背景、技術的な課題について、そこで活躍した沖野忠雄をはじめとする明治の若き技術者たちにも注目しながら、明らかにしています。

- 編集：土木図書館委員会 沖野忠雄研究資料調査小委員会(委員長：東洋大学・松浦茂樹)
- 2010年3月発行、菊判、714ページ、上製本
- 定価：5,250円(本体5,000円+税)→**会員特価：4,730円**※注
- 送料：590円

ISBN 978-4-8106-0655-3

注文・
問合せ先

(社)土木学会 出版事業課 書籍販売係
 TEL 03-3355-3445 / FAX 03-5379-2769
 ■Web注文 <http://www.jsce.or.jp/publication/>
 ■FAX注文 学会誌編込み「図書注文書」をご使用ください

丸善(株) 出版事業部
 TEL 03-6367-6038 / FAX 03-6367-6158
 ※注)丸善への注文には会員特価は適用されません